■ 国内大会

(国内大会の年度は、11～63年度が「昭和」、H1年～30年度が「平成」、2019年度からは主催に準じ西暦もしくは「令和」で表す)

全日本卓球選手権大会

◆団体の部

年度	開催地	男子団体	女子団体
41年	愛知	全日本選抜A (東京)	全日本選抜A (東京)
42年	愛知	専修大学 (東京)	大生信用組合 (東京)
43年	愛知	専修大学 (東京)	名古屋市 (愛知)
44年	静岡	専修大学 (東京)	専修大学 (東京)
45年	三重	専修大学 (東京)	青山学院大学 (東京)
46年	東京	専修大学 (東京)	大生信用組合 (東京)
47年	愛知	シチズン時計 (東京)	大生信用組合 (東京)
48年	大阪	日本楽器製造 (静岡)	愛知工業大学 (愛知)
49年	三重	シチズン時計 (東京)	富士短期大学 (東京)
50年	佐賀	近畿大学 (大阪)	富士短期大学 (東京)
51年	青森	近畿大学 (大阪)	専修大学 (東京)
52年	長野	近畿大学 (大阪)	第一勧業銀行 (東京)
53年	宮崎	協和発酵 (東京)	第一勧業銀行 (東京)
54年	栃木	日本楽器製造 (静岡)	富士短期大学 (東京)
55年	滋賀	シチズン時計 (東京)	川崎製鉄千葉 (千葉)
56年	島根	明治大学 (東京)	日産自動車 (神奈川)
57年	群馬	明治大学 (東京)	日産自動車 (神奈川)
58年	奈良	日本楽器製造 (静岡)	日産自動車 (神奈川)
59年	鳥取	川崎製鉄千葉 (千葉)	日産自動車 (神奈川)
60年	山梨	日産自動車 (神奈川)	青山学院大学 (東京)
61年	沖縄	日本楽器製造 (静岡)	武田薬品湘南 (神奈川)
62年	京都	日産自動車 (神奈川)	日産自動車 (神奈川)
63年	北海道	日産自動車 (神奈川)	三井銀行 (東京)
H1年	福岡	日産自動車 (神奈川)	住友生命 (大阪)
2年	石川	協和発酵 (東京)	日産自動車 (神奈川)
3年	山形	日産自動車 (神奈川)	日産自動車 (神奈川)
4年	香川	ヤマハ (静岡)	日産自動車 (神奈川)
5年	愛知	びわこ銀行 (滋賀)	武田薬品湘南 (神奈川)
6年	福島	日産自動車 (神奈川)	松下電器 (大阪)
7年	広島	日産自動車 (神奈川)	日本生命 (大阪)
8年	大阪	グランプリ (大阪)	日本生命 (大阪)
9年	神奈川	日産自動車 (神奈川)	松下電器 (大阪)
10年	熊本	日産自動車 (神奈川)	日本生命 (大阪)
11年	富山	日産自動車 (神奈川)	日本生命 (大阪)
12年	宮城	東京アート (東京)	日本生命 (大阪)

年度	開催地	男子団体	女子団体
13年	高知	日産自動車 (神奈川)	日本生命 (大阪)
14年	静岡	東京アート (東京)	日本生命 (大阪)
15年	埼玉	東京アート (東京)	淑徳大学 (埼玉)
16年	岡山	日産自動車 (神奈川)	日本生命 (大阪)
17年	兵庫	東京アート (東京)	日本生命 (大阪)
18年	秋田	東京アート (東京)	日本生命 (大阪)
19年	大分	日産自動車 (東京)	日本生命 (大阪)
20年	新潟	東京アート (東京)	日立化成 (茨城)
21年	千葉	東京アート (東京)	日立化成 (茨城)
22年	山口	東京アート (東京)	日本生命 (大阪)
23年	岐阜	東京アート (東京)	淑徳大学 (埼玉)
24年	東京	東京アート (東京)	中国電力 (広島)
25年	長崎	東京アート (東京)	日本生命 (大阪)
26年	和歌山	東京アート (東京)	日本生命 (大阪)
27年	岩手	協和発酵キリン (東京)	日立化成 (茨城)
28年	愛媛	東京アート (東京)	中国電力 (広島)
29年	福井	協和発酵キリン (東京)	日立化成 (茨城)
30年	茨城	リコー (東京)	ジュニアナショナルチーム -
2019年	鹿児島	東京アート (東京)	中国電力 (広島)
2020年	三重	中止	
2021年	栃木	東京アート (東京)	中国電力 (広島)
2022年	鹿児島	愛知工業大学 (愛知)	ジュニアナショナルチーム -
2023年	佐賀	ファースト (千葉)	デンソー (静岡)
2024年	滋賀	ファースト (千葉)	中国電力ライシス (広島)
2025年	青森		

注1：昭和54年度までは「全日本総合団体選手権大会」と称した。

注2：昭和60年度大会からは、世界選手権大会方式に戻した。

注3：平成2年度から男子を世界選手権大会の新しい方式(ニュースウェイスリングカップシステム)に変更した。